Q-AOS 九州大学 アジア・オセアニア研究教育機構　ブラウンバッグセミナー

Brown Bag Seminar No 093

2023 4.26(水) 12:10 ~ 12:50

12:10-12:15 ◆演者紹介
12:15-12:40 ◆プレゼン
12:40-12:50 ◆質疑応答

オンライン (Zoom)
登録はこちら

https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_hqU8VlsAQWikErI0LgKg9A

【技術支援】九州大学 Q-AOS & TEMDEC

固定翼ドローンと科学観測

司会：横田 文彦 准教授 (Q-AOS 研究推進コーディネーター)

9 産業と技術革新の基盤をつくろう
13 気候変動に具体的な対策を

Key Words

ドローン
UAV　科学観測
南極

東野 伸一郎 教授

九州大学　工学研究院 航空宇宙工学部門 航行ダイナミクス

鹿児島県の出身で，九州大学工学部航空工学科卒業後，大学院応用力学（実は航空工学のこと，戦後の航空研究禁止の名残）専攻に進学しました．大学院修了後，川崎重工業株式会社に勤務したのち九州大学に助手として採用されました．
助手時代に博士（工学）を九州大学より授与され，講師，准教授を経て現職を務めています．2001 年から 1 年間，米国シアトルにあるワシントン大学で客員研究員として過ごし，シアトル滞在中は土日にパイロットスクールに通い，パイロットライセンスを取得しました．
現在もほぼ毎月一回のグライダーのフライトを楽しんでいます．
ラジコン飛行機を飛ばして得られる飛行データから機体の空力特性を推定する方法の研究に始まり，その後は無人航空機（ドローン），なかでもいわゆる飛行機タイプの固定翼無人航空機を科学観測に応用するための研究を続けてきています．

今ではすっかり市民権を得た感のあるドローンは，空中からの映像撮影だけでなく，ウクライナ侵攻のニュースで伝えられているように，使い方によっては兵器にもなります．一方，ドローンの中でも固定翼ドローンと呼ばれる飛行機タイプのものは，比較的狭い領域で利用されるいわゆるドローンに対して，地球温暖化やゲリラ豪雨の原因のひとつと考えられている空気中の微粒子（エアロゾル）を高高度から採取して地上に持ち帰ったり，地球の活動を理解するうえで重要な，広い領域の地磁気異常をくまなく調べるような用途に向いています．本セミナーでは，エアロゾルの研究者や地球磁場の研究者のデータ収集のために開発した特殊な固定翼ドローンと，それらを用いて南極やエチオピアで実施した観測について，南極やエチオピアでのこぼれ話とともにお話します．